

13年ぶり近畿6府県で共催

農年加入推進特別研修会

近畿府県の農業会議・JA中央会、独立行政法人農業者年金基金は7月18日、奈良市内・奈良ロイヤルホテルで「令和7年度近畿ブロック農業者年金加入推進特別研修会」を開催。近畿6府県の共催は13年ぶり、各府県の農業委員、農地最適化推進委員、加入推進部長、農業委員会事務局職員、JAの農業者年金担当職員など、会場・WEBを併せて261人が出席した。研修会でははじめに、年金基金の永武幸子広域推進協力員が

「こんにちはー農業者年金ー確認してみようー農業者のための公的な年金ー」を演題に年金制度の概要と加入推進について説明。京都府京丹波町農業委員会の元事務局長として加入推進に注力した永武協力員は、着任から6年間で新規加入者20人を獲得した経験に基づき、制度の特徴、iDeCo（イデコ）との違い、加入対象者には国民年金の付加年金のメリットを併せて伝えることなど、加入推進時の留意事項等を中心に解説した。

自分らしく輝き続けるために
第3回年金オンラインセミナー

独立行政法人農業者年金基金は8月26日15時より、第3回農業者年金オンラインセミナーを開催する。

(株)ジーステラエンタープライズの堀口浩代表取締役と、農業者年金広域推進協力員の永武幸子氏が講師として「自分らしく輝き続けよう！」をテーマにリアルタイムで視聴者の質問を受け付けながら、講演を行う。



予約フォーム用
QRコード

より申し込みが可能な。予約は8月25日まで。
(林佑)

具体的な年金額を知り、将来の生活をイメージしたい農業者のほか、業務受託機関担当者、農業委員、農地利用最適化推進委員なども対象となる。参加費無料、事前登録制で、左図のQRコードまたはURL (<https://forms.gle/WUHVJBUEVWwAdtw8>)

加入推進優良事例報告

事例報告ではまず、毎年度全国上位新規加入実績をあげている長崎県南島原市農業委員会の太田香代子会長が「農業者年金加入推進ーあきらめず、自身を持ってー」を演題とする活動報告を行った。

8町の合併で形成された同市では、各地域の実情に精通した農業委員など8人で構成される農業者年金加入推進部会を設置。

パネルディスカッション
窓口対応等ロールプレイ実践

事例報告後はパネルディスカッションを実施。①「移住して農業を開始したい新規参入者が農業委員会窓口にて農地の相談にきた場合」②「訪問した農業者宅で夫が農業者年金加入済み、妻が未加入だった場合」③「地域計画の座談会で加入対象者名簿に名前はないが、農地を所有し自家菜園を営む者と接した場合」の3ケースを想定して会場出席者がロールプレイを行い、各ケースでの加入推進の進め方を確認した。

ケース①ではパネリストから「相談者に時間の猶予があるかを確認しつつ、無理のない範囲

加入推進部長、農業委員、農業者年金受給者協議会、農業者年金女性の会、JAと連携して、①加入推進大会②加入対象者の情報共有を行う作戦会議③アプローチ④戸別訪問⑤再訪予約の手順で加入推進を実施している。次に令和6年度新規加入者数で全国1位の実績を挙げた茨城県八千代町農業委員会の小竹節会長が「新規加入者60人で全国1位の加入推進」を演題に報告を行った。

でリーフレットやチラシを渡す」「将来的に加入対象者名簿に載る可能性が高いため農業者年金を知らない人を減らすという視点から可能であれば簡単な説明を行う」などの意見が挙がった。

そのほか、ケース②と③では「夫婦の年齢や夫の加入の種類などをヒアリングして、対象者に合った加入推進を行う」「兼業農家でも加入可能ななどのメリットを強調する」など多数のコメントがあった。

また、研修会では農業者年金理事長表彰の表彰式を実施。昨年度の加入実績として顕著な成績をおさめた奈良県五條市農業委員会・

平成29〜令和5年度で年間の新規加入者数が1桁だった同町は、6年度の10月中旬から1ヵ月を農業者年金強化月間に指定。小竹会長の「新規加入者100人を目指す」宣言のもと、認定農業者約250経営体にチラシを郵送した。その後2回の作戦会議を経て、農業委員会のグループLINEで情報共有を行うしつつ戸別訪問を実施することで、短期間で60人の加入者を確保した。

京都府京丹波町農業委員会が受賞し、それぞれ年金基金の黒田理事長より表彰状が手渡された。

(林佑)



農業委員会と農業者夫婦に分かれて
ロールプレイを行う出席者